

災害時に必要とされる 公衆衛生機能

平成28年8月18日(木)14:00-14:45
愛知県歯科医師会館 歯〜とぴあホール
中久木 康一

東京医科歯科大学・大学院・顎顔面外科学助教
神奈川歯科大学・大学院・災害医療歯科学特任准教授
日本災害時公衆衛生歯科研究会世話人
災害歯科保健医療連絡協議会WG委員

nakakuki@biglobe.jp

災害時の歯科の役割

災害時の歯科の役割(1)

1985, 日本航空123便墜落事故

犠牲者 520名

1993, 北海道南西沖地震

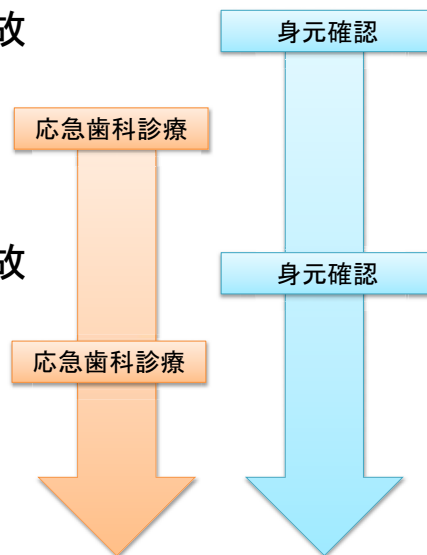
北海道医療大学により、奥尻島の津波犠牲者に対する即時義歯治療が提供された

1994, 中華航空140便墜落事故

犠牲者 264名

1995, 阪神淡路大震災

歯科大学、歯科医師会、病院歯科が連携して2か月半に渡って応急歯科診療を提供した

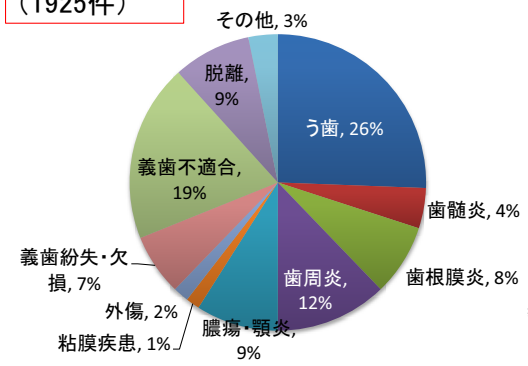


阪神・淡路大震災 避難所巡回診療における応急歯科診療

1995 1/21-3/31

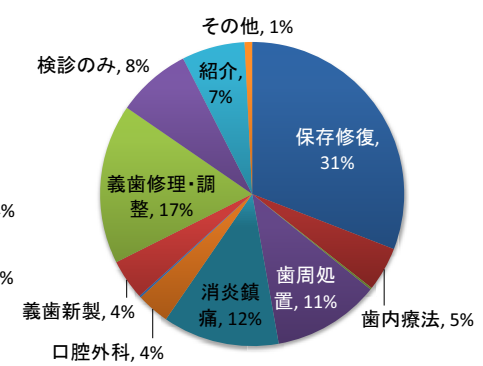
巡回診療における病名分類

総数: 1764人 (1925件)



巡回診療における処置内容

総件数1925件



歯科保健医療支援活動の需要

阪神・淡路大震災での初期の調査

避難場所: 神戸市東灘区8か所
 避難人口: 延べ15,630人

大阪歯科大学 西川ら

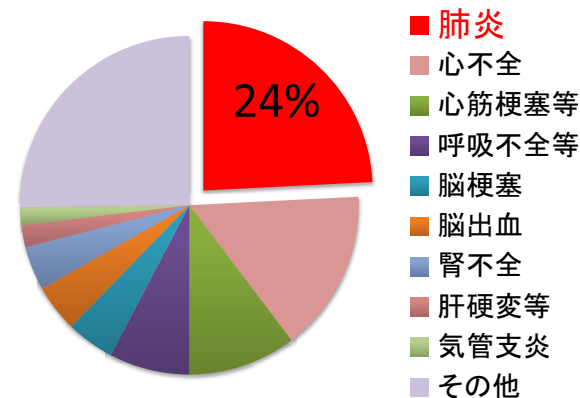
症状等	期間		小計
	1/21~1/22	1/28~2/4	
歯髄炎・歯周病等の歯の痛み	33	39	72(25.4%)
粘膜炎	41	43	84(29.7%)
義歯紛失・破損・脱離	31	9	40(14.1%)
智歯・歯肉の腫れ	7	8	15(5.3%)
その他(相談を含む)	27	45	72(25.4%)
合計	139	144	283(100%)

歯科医療需要: 283/15,630(1.8%)
 避難人口に対する歯科医療需要
 $270,000 \times 0.018 = 4,800$ 人

炎症 34.5%
 義歯 28.5%

出典: 阪神・淡路大震災と歯科医療(兵庫県病院歯科医会)

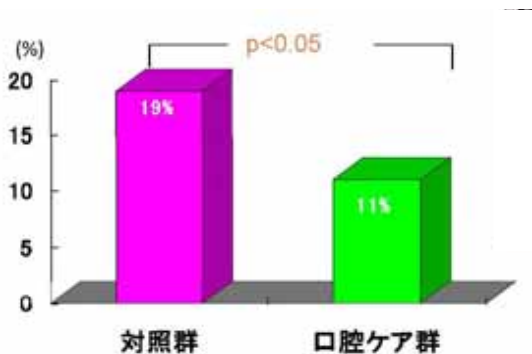
阪神・淡路大震災における災害関連死



災害関連死: 921
 全犠牲者数: 6402
 神戸新聞, 2004.5.14

口腔ケアにより特別養護老人ホームにおける肺炎の発症率が低下した

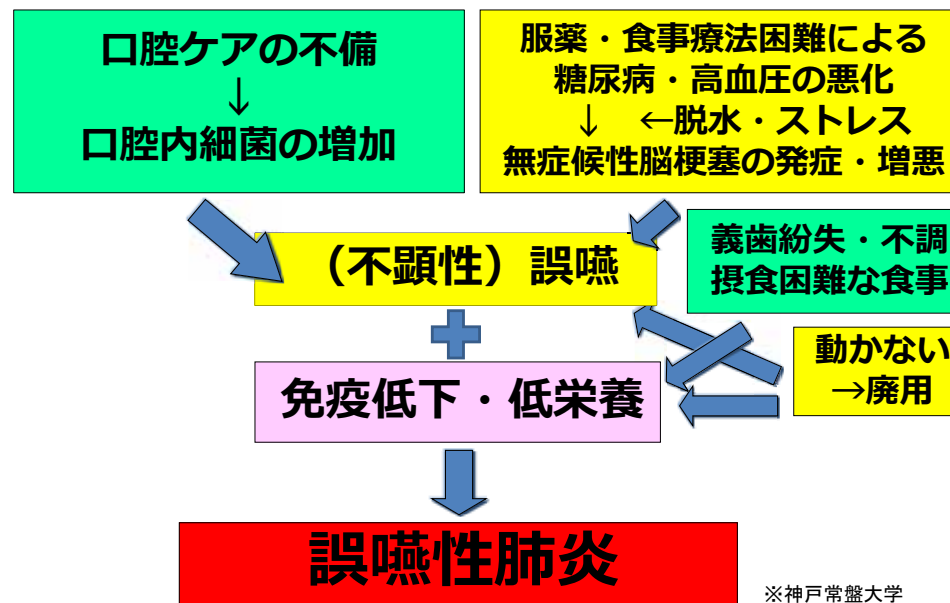
2年間の肺炎発症率



Yoneyama T, Yoshida Y, Matsui T, Sasaki H: Lancet 354(9177), 515, 1999.

特に高齢者や障害者などの要支援者に対して、口腔ケアが提供されるようになった

避難所肺炎の成因



※神戸常盤大学
 足立了平教授提供資料

災害時の歯科の役割(2)

2004, 新潟県中越地震

全犠牲者 68名のうち、災害関連死52名、うち肺炎8名 (15%)

口腔ケア

応急歯科診療

2007, 新潟県中越沖地震

犠牲者 15名

口腔ケア

応急歯科診療

	阪神・淡路大震災	新潟県中越地震
犠牲者	6,434	68
震災関連死	921 (14.3%)	52 (76.4%)
震災関連死における肺炎	223 (24.2%)	8 (15.3%)
仮設住宅孤独死者数	233	75歳以上: 6名
復興住宅孤独死者数	717	(平均年齢86.8歳)

平成22年度版改訂

歯科医学教育コアカリキュラム

B-2-2) 保健・医療・福祉制度

到達目標

⑪災害時の歯科医療の必要性について説明できる。

B-2-3) 歯科による個人識別

一般目標:

歯科による個人識別の重要性を理解する。

到達目標:

①個人識別について説明できる。

②歯科による個人識別について説明できる。

災害時の歯科の役割(2)

2004, 新潟県中越地震

全犠牲者 68名のうち、災害関連死52名、うち肺炎8名 (15%)

口腔ケア

応急歯科診療

2007, 新潟県中越沖地震

犠牲者 15名

口腔ケア

応急歯科診療

2011, 東日本大震災

全犠牲者2万名以上のうち
災害関連死3089名
直後の避難者47万人

口腔ケア

応急歯科診療

身元確認



平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震は、未曾有の大災害であり、多くの尊い命が失われ、様々な健康被害が発生しています。震災直後の救命救急医療の提供が重要である一方で、今後、被災地での避難所等における生活が長期に及ぶ可能性もあり、その際にも様々な健康への影響が懸念され、健康を守るための対策が重要です。

避難生活の際に、病気にかからないよう、また、できるだけ健康に過ごしていただくため、大切なことを以下にまとめました。被災者を支援する方にも、これらのことを知

歯と口の清掃(口腔ケア)・入れ歯

歯・口・入れ歯の清掃がおろそかになり
(中略)

誤嚥性肺炎などの呼吸器感染症を引き
おこしやすくなります

歯とお口の健康小冊子<<http://www.8020zaidan.or.jp/magazine/index.html>>、
口腔ケア<<http://www.8020zaidan.or.jp/care/index.html>>が提供されています。

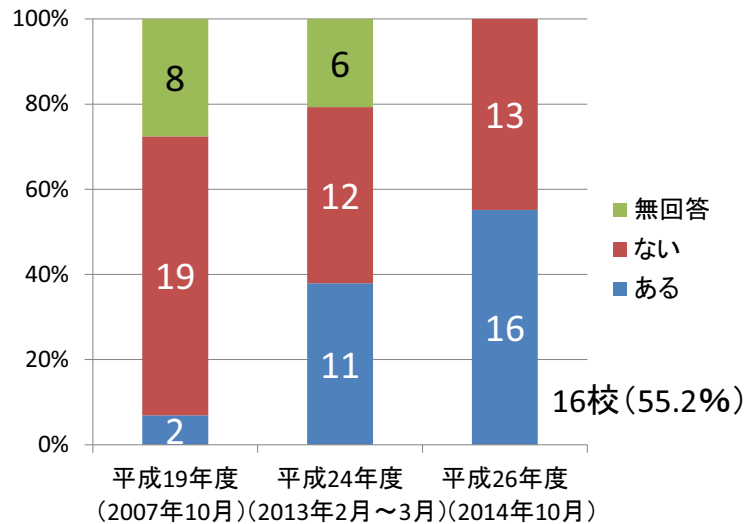
3. こころのケア
4. 慢性疾患の方々へ
5. 妊婦さん、産後間もないお母さんと乳幼児の健康のために

平成26年版歯科医師国家試験出題基準 歯科医学総論 I 保健医療論

4 地域保健、地域医療	ア 公衆衛生活動、地域保健活動	イ 医療計画、健康増進計画	ウ ヘルスプロモーション	エ 地域保健活動の進め方	オ 都道府県、市町村、保健所の歯科保健業務	カ プライマリケア	キ かかりつけ歯科医機能	ク 救急・災害時等の歯科保健医療対策	ケ へき地医療	コ 在宅医療、在宅歯科医療
										医療政策を含む
										大規模災害を含む

救急・災害時等の歯科保健医療対策
(大規模災害を含む)

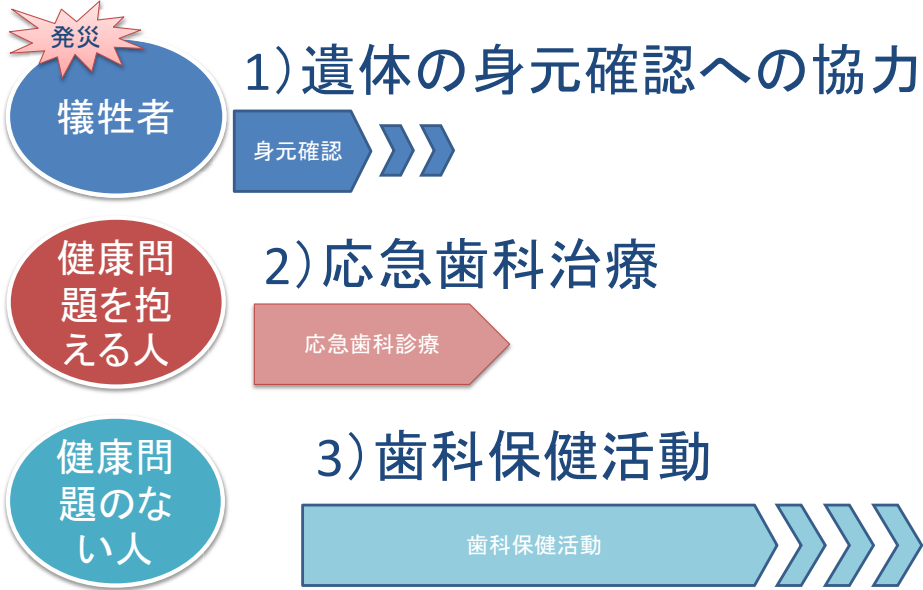
災害時歯科保健医療教育実施の有無



歯科救護の対象

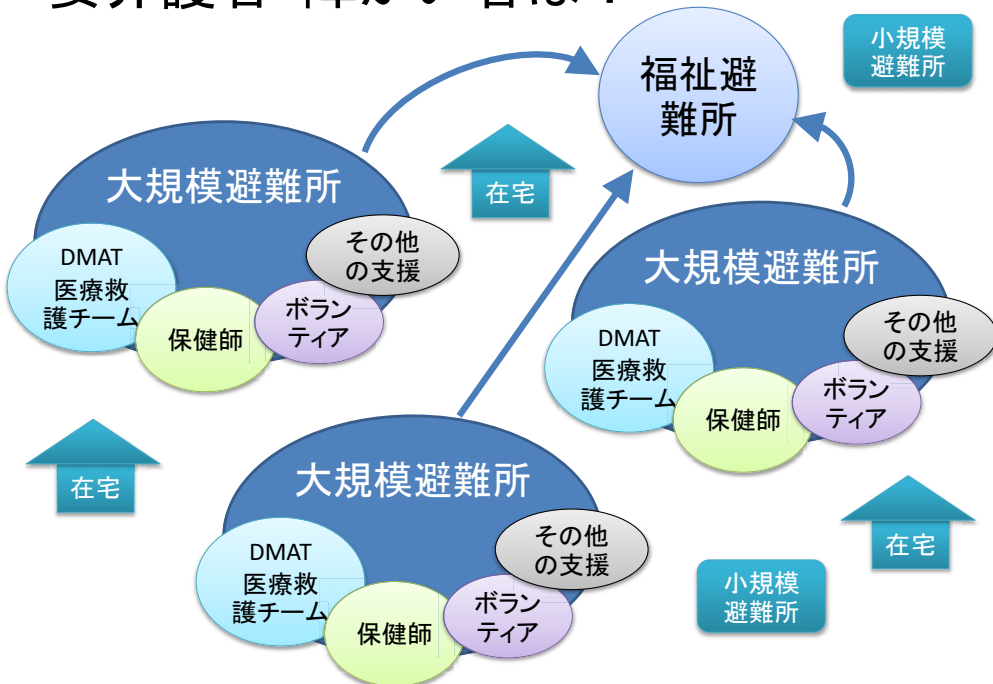
対象	内容	連携
犠牲者	犠牲になられた方	個人識別への協力 警察 海上保安庁 監察医 etc.
健康問題を抱える人	痛みのある人 通院中だった人 義歯破損・不適合の人	医療活動 災害拠点病院 DMAT / JMAT 日赤 etc.
健康問題のない人	特に重要なのは要配慮者 高齢者(摂食・嚥下障害) 有病者(糖尿病) 乳幼児・小児	保健活動 自治体 保健所 保健センター etc.

災害時の歯科保健医療支援活動



東日本大震災で困ったこと

要介護者・障がい者は？



健康相談班が抱えた問題

- 相談班に加わる支援団体・チームが多く、かつ短期間で入れ替わるためにコントロールが難しい
- チームが入れ替わるごとに、オリエンテーションが必要
また、新メンバーが感じた課題やアドバイスをすることにより、地元保健師は外部支援者に同じような課題・問題点を何度も何度も、指摘・アドバイスされることとなる
- 多くの都道府県から派遣されている中で、その中の1都道府県チームがコーディネーターとなることは難しい

↓

継続したコーディネーターが必要

外部からの支援がくることにより 受け入れ職員の仕事が増える

どこにあるの？
どうすればいいの？
どうなの？

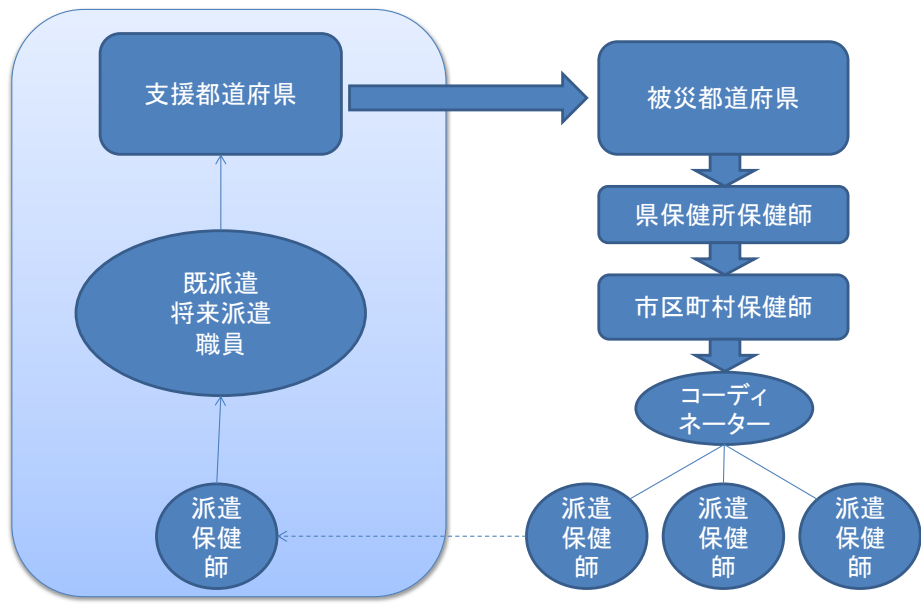


人が来るたびに、オリエンテーション
慣れてきたころ、いなくなる

こうやったほうがいい！
** 職としてすべき責務だ！
直後ならわかるけど、まだできていないの？
** 県だったらそんなことはありえない！

批判は簡単ですが、いざ自分が担当者だったら、
この未曾有の大災害をマネジメントできるんですか？

支援ニーズは現場で考えるべきでは？



包括的 プライマリヘルスケア

理念を重要視し地域の人々の真のニーズに基づき
構築され続ける活動

- PHCの5原則として以下のことが主要理念として知られています。.....B
 1. 住民のニーズに基づく方策
 2. 地域資源の有効活用
 3. 住民参加
 4. 他のセクター(農業、教育、通信、建設、水など)との協調、統合
 5. 適正技術の使用

ニーズの分類

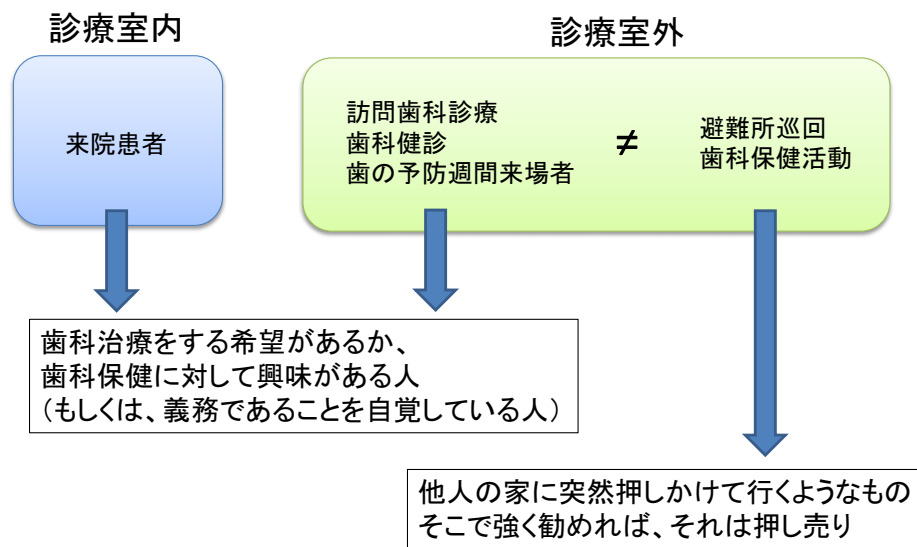
1. 歯科医師等専門家が必要だと考える歯科医療・ケアの必要性 (Normative needs)
2. 本人(住民)が自覚している歯科医療・ケアの必要性 (Felt needs)
3. 本人(住民)が実際に歯科介入を受けに行くという形で表現されたニーズ (Expressed needs) = 提供される歯科医療・ケアの需要

東日本大震災 被災地支援に包括的PHCの視点を
シェア=国際保健協力市民の会 理事 仁科晴弘
http://share.or.jp/opinion_advocacy/insistence/004.html

1. Daly B, Watt R, Batchelor P, Treasure E : Definitions of Health. Essential Dental Public Health 2002 ; New York : 33-44.
2. 深井稯博: 歯科保健医療におけるニーズと需要の概念, ヘルスサイエンス・ヘルスケア9(1), 1-3 (2009)
3. Bradshaw JS: A taxonomy of social need. Oxford University Press 1972; London: 69-82.

相田潤, 避難所活動における調査事項について, 2011年5月7日, 宮城県歯科医師会館

地域保健活動でのニーズは 診療室外での活動ともまた違う



心構え

- 私たちは、可能ならば1日でも早く被災地に駆け付けそういった医療者の代わりを担い、必要な休息を提供したいものです。そこでは、私たちは地元の方々の「黒子」に徹したいと思います。
- たとえ数カ月お手伝いさせて戴いたとしても、私たちはやがて居なくなる者です。私たちが表に立って仕事を推進する事は、将来地元で仕事を引き継ぐ方々に負担を残す可能性があります

東日本大震災 被災地支援に包括的PHCの視点を
シェア＝国際保健協力市民の会 理事 仁科晴弘
http://share.or.jp/opinion_advocacy/insistence/004.html

災害派遣

- どこでサッカーやるかのちがい
 - 普段はグラウンドの違い
 - ボールも違ったりする
 - でもルールは変わらない



©ワールド・ビジョン・ジャパン

- シューズもボールもなければ？
 - シューズはなくても、あき地でも、狭くても、ゴールなくても、人数少なくても、ボールじゃなくても、世界中で、サッカーはできる
 - 基本的なルールは変えず、その場にあわせる

支援とは

足りないところをサポートすること
支援は慈善事業とは違う

- ①業績を出そうとしてはダメ
業績を出させてなんぼ
環境整備
- ②決められた役割は、文句も言わず
ただもくもくとこなす

教育？

親？

歯科の「共通」アセスメント

「災害時公衆衛生歯科機能について考える会」提言，平成25年10月

目的：継続的な共通アセスメントにより、必要な時に必要な所に必要とされている支援を届ける！

* フェーズ I

レベル1(全体レベル) 他職種主導

* フェーズ II ~ 継続的に

レベル2(集団レベル) 自治体主導(多職種、歯科職も)

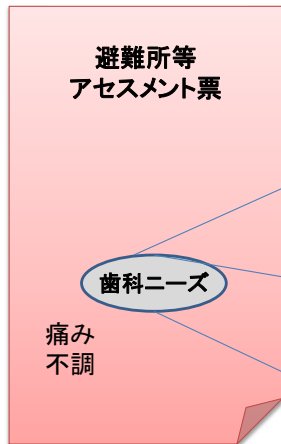
* フェーズ III ~ 継続的に

レベル3(個人レベル) 現場(歯科医師会・歯科衛生士会)主導

歯科口腔ニーズアセスメントのレベル

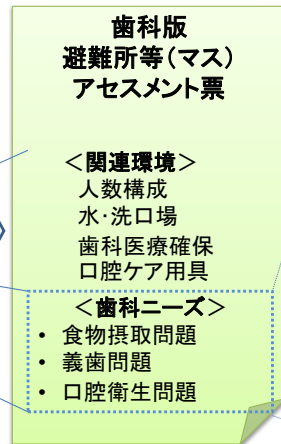
公衆衛生職
共通の眼

レベル1-全体



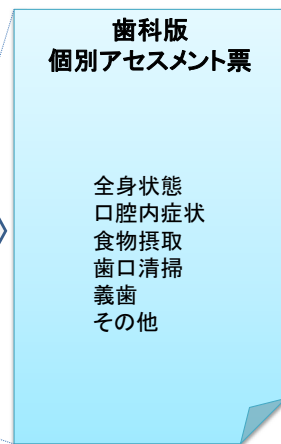
公衆衛生
歯科職の眼

レベル2-集団



臨床的な
歯科職の眼

レベル3-個人



「災害時公衆衛生歯科機能について考える会」提言，平成25年10月

避難所 アセスメント票(例)

被災者の健康ニーズ
を概要を把握する
システム

細かい基準なし

レベル1
(全体レベル)
フェーズ1

項目		状態	備考
全体人数	約 人		受診人数 人 発熱(38度以上) 人・咳 人・嘔吐 人・下痢 人
水・水道	◎・○・△・×		
食事	◎・○・△・×		市町村への食料調達量 人分
電気	◎・○・△・×		
ガス	◎・○・△・×		
毛布	◎・○・△・×		
寝具	◎・○・△・×		
衛生状態/トイレ	◎・○・△・×		
既活動中の医療救護チーム等の名称			
小児科ニーズ	多・中・少・無		
精神科ニーズ	多・中・少・無		
高齢高齢ニーズ	多・中・少・無		妊産婦(月 人)(月 人) (月 人)(月 人)
歯科ニーズ	多・中・少・無		痛みあり 痛みなし(入れ歯未(した等)
その他			

歯科版避難所等 アセスメント票

「災害時公衆衛生歯科機能
について考える会」提案

避難所等歯科口腔保健
アセスメント票
(標準化レベル2)

**レベル2
(集団レベル)
フェーズ2以降継続**

避難所等歯科口腔保健 標準アセスメント票 (レベル2) 日本歯科医師会統一版			
避難所等名 (施設名)	市町村名	避難所責任者氏名	連絡先 (電話番号)
避難者数	350人	T山さん	000-0000-0000
評価年月日	西暦 2011年 4月 15日		
評価時在所避難者数	100人		
評価者氏名	氏名: 中久木康一 所属: TMDU 職種: ① 歯科医師 ② 歯科衛生士 ③ 保健師・看護師 ④ 医師 ⑤ その他	情報収集法 ※ 実施した方法をすべてチェックする <input checked="" type="checkbox"/> 責任者等からの聞き取り <input checked="" type="checkbox"/> 役職・氏名: センター長T山さん、看護師さん <input checked="" type="checkbox"/> 避難者からの聞き取り (15人程度) <input type="checkbox"/> 現場の観察 <input type="checkbox"/> 支援活動等を通して把握 <input type="checkbox"/> その他	
項目	簡易評価	確認項目 (※確認できれば数値や具体的内容を記載)	特記事項
(1) 特に口腔衛生に配慮が必要な対象者		a 乳幼児 (就学前) (約 10人 or %), 不明 b 妊婦 (約 2人 or %), 不明 c 高齢者 (75歳以上) (約 100人 or %), 不明 d 障がい児者・要介護者 (約 20人 or %), 不明 e 糖尿病等の有病者 (約 人 or %), 不明	

大規模災害時の 歯科医師会行動計画

改訂版
平成 25年 6月

災害支援活動
歯科衛生士実践マニュアル

**レベル3
(個人レベル)
フェーズ3以降継続**

公益社団法人 日本歯科医師会
災害時対策・警察歯科総合検討会議

公益社団法人日本歯科衛生士会

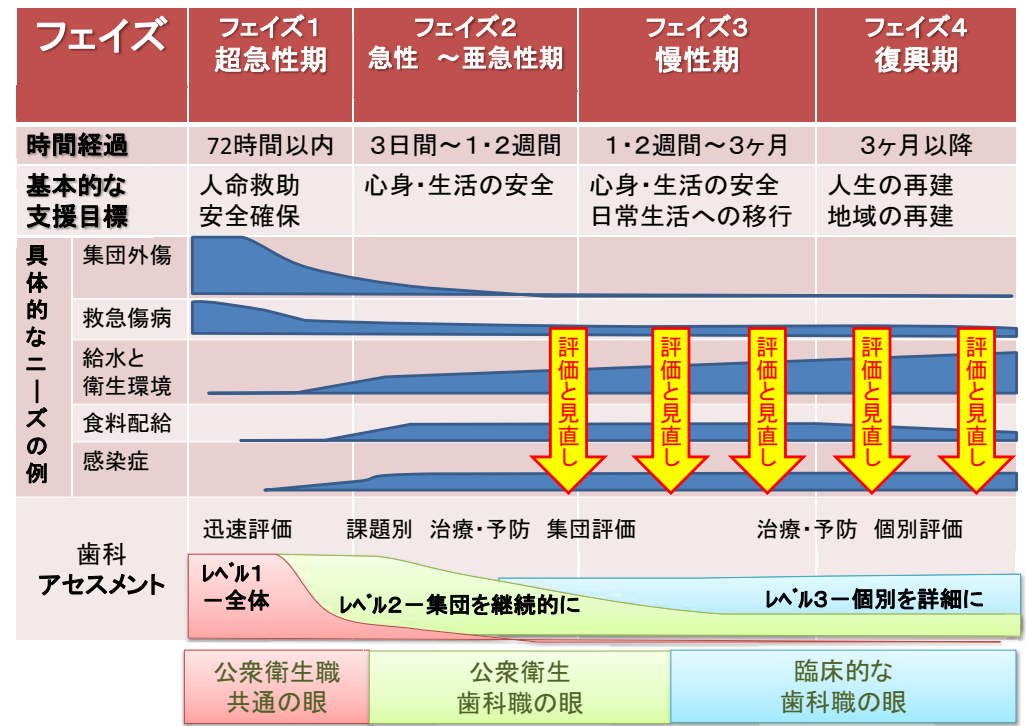
避難所等歯科口腔保健 標準アセスメント票 (レベル2) 日本歯科医師会統一版 (例)

項目	簡易評価	確認項目 (※確認できれば数値や具体的内容を記載)	特記事項
(2) 口腔清掃等の環境	◎ ○ △ × -	a 歯磨き用の水 ① 充足, 2 不足, 3 不明 * (具体的に:) b 歯磨き等の場所 ① 充足, ② 不足, 3 不明 * (具体的に: フライパー守れず)	
(3) 口腔清掃用具等の確保	◎ ○ △ × -	a-1 歯ブラシ (成人用) ① 充足, 2 不足 (約 人分), 3 不明 a-2 歯ブラシ (乳幼児用) ① 充足, ② 不足 (約 人分), 3 不明 b 歯磨き剤 ① 充足, 2 不足 (約 人分), 3 不明 c うがい用コップ ① 充足, 2 不足 (約 人分), 3 不明 d 歯歯洗浄剤 ① 充足, 2 不足 (約 人分), 3 不明 e 歯歯ケース ① 充足, 2 不足 (約 人分), 3 不明 f その他 義歯洗浄剤 ① 充足, ② 不足 (約 人分), 3 不明	
(4) 口腔清掃状況	◎ ○ △ × -	a 歯磨き ① している, 2 ほとんどしていない, 3 不明 b 歯歯清掃 ① している, 2 ほとんどしていない, 3 不明 c 乳幼児の介助 ① している, 2 ほとんどしていない, 3 不明 d 障がい児者・要介護者の介助 ① している, 2 ほとんどしていない, 3 不明	看護師、介護福祉士協会が対応
(5) 歯や口の訴え・異常	◎ ○ △ × -	a 痛みがある者 ① いる (約 人), 2 確認できない b 食事等で不自由な者 ① いる (約 人), 2 確認できない (歯歯紛失、咀嚼や嚥下の機能低下等による) c 他の問題*がある者 ① いる (約 人), 2 確認できない * (具体的に:)	

◎良好・問題なし、○ほぼ良好・ほぼ問題なし、△やや問題あり、×大いに問題あり、-:不明

項目	簡易評価	確認項目（※確認できれば数値や具体的内容を記載）	特記事項
(6) 歯科保健医療の確保	(◎・○・△・×・ー)	a 受診可能な近隣の歯科診療所・歯科救護所・仮設歯科診療所等 1あり、2ない、3不明 b 巡回歯科チームの訪問 1-①あり(定期的)、2あり(不定期)、3不明	歯科医師会へ依頼は可
その他の問題	具体的に：肺炎、インフルエンザなし。食中毒なし。 食事偏りあり。余震で夜泣き、お菓子多い。 魚の腐った臭いひどい。はえ大量発生中。 (先週、鹿児島 の先生がきて入 れ歯11人診た)		

※ 簡易評価の定義：◎良好・問題なし、○まあ良好・ほぼ問題なし、△やや問題あり、×大に問題あり、ー：不明
 (**県***県歯科医師会)

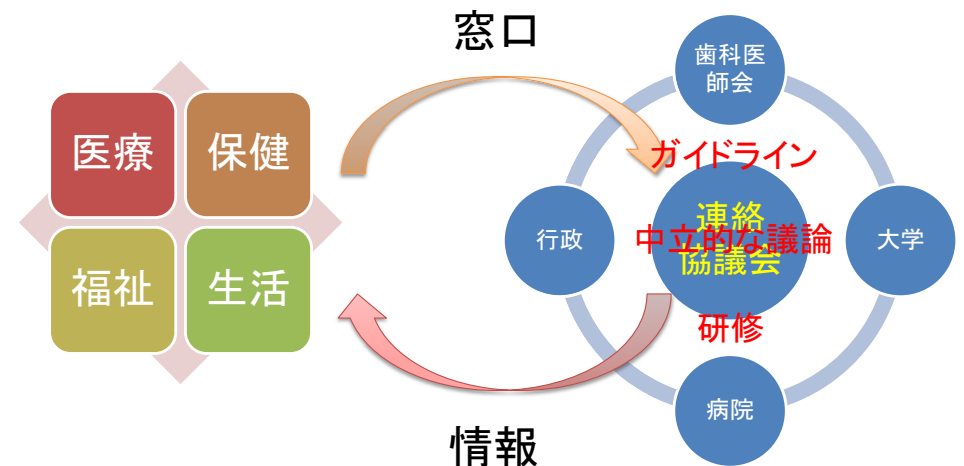


「歯科」が必要とされるためには

- 同じ言語、同じ質を担保する
- 教育研修体系の一元化が必要
- 認定もでき、派遣候補リストともなる
- 必要な患者さんに必要なケアを必要なタイミングで届ける
- 必要なのは組織としての統一性と継続性
- 不必要なのは個人の判断

歯科として、まとまろう！

災害歯科保健医療連絡協議会



災害歯科保健医療連絡協議会の設置について

【設置目的】

大規模震災後の避難所・仮設住宅、被災者等への歯科保健医療の提供は、JMATと帯同する病院歯科医師から、中長期の仮設住宅・高齢者施設等への口腔ケアや歯科相談等の提供に至るまで、様々な歯科関係職種の継続的な支援が必要である。

そのため、日本歯科医師会主導の下、歯科関係団体同士の連携や災害対応に関する認識の共通化を図るとともに、各歯科団体独自の行動計画等の情報集約や共有を促し、有事に際して国や都道府県との連携調整を行い、被災地の歯科医療救護や被災者の歯科支援活動を迅速に効率よく行うべく、歯科関連団体の協議会を設置する。

【参加団体・人数】

・日本歯科医師会 ・都道府県歯科医師会：全国7地区代表者 ・日本歯科医学会 ・日本私立歯科大学協会 ・国立大学歯学部長・歯学部附属病院長会議 ・全国医学部附属病院歯科口腔外科科長会議 ・日本病院歯科口腔外科協議会 ・日本歯科衛生士会 ・日本歯科技工士会 ・全国行政歯科技術職連絡会 ・日本歯科商工協会

※オブザーバー：厚生労働省、日本医師会（JMAT関係者）、自衛隊歯科、必要に応じてその他追加

【主な協議内容】

- 1) 災害時における行政・他業種等の対外的な窓口
- 2) 災害時の各団体との連携、派遣調整（自衛隊歯科との連携）
- 3) 情報センター機能として資料整理
- 4) 避難所等標準口腔アセスメント票 統一版の作成・周知
- 5) 人材育成、情報共有のための仕組みの構築
- 6) 各団体登録者リストの作成
- 7) 協議会設置のPR・広告
- 8) 歯科関係団体災害時対応マニュアルの改訂
- 9) 医療関係職種・団体との連携

平時からの準備

- 具体的には、平時から、災害時の準備をしておくということ？
- それとも、平時から、大災害にも対応できる、超小さな災害への対応システムを運用するべき？
- より広い範囲、より多岐に渡った内容の地域包括ケアを整えて行くことが、災害時の対応に結びつくと考えれば、普段からやっているシステムの延長で、対応できることとなる

地域包括ケアにおけるBCP

- ・ 歯科としての目標は、「誤嚥性肺炎で命を落とす人をゼロにする」
- ・ このためには、普段から地域の全ての高齢者・障がい者・介護福祉施設に、歯科の誰かが関わって継続的なケアをしていることが前提となる
- ・ そのうえで、その機能をみんなで助け合って維持していく
- ・ 住民は移動し続け、地域も変化しつづけることに、対応しつづける必要がある

災害対策のキーワード

- 普段通り
- 普段をどこに設定するのか
- いかに普段通りをキープするのか

災害時の保健医療救護・支援の体制

災害援助の核となる法律

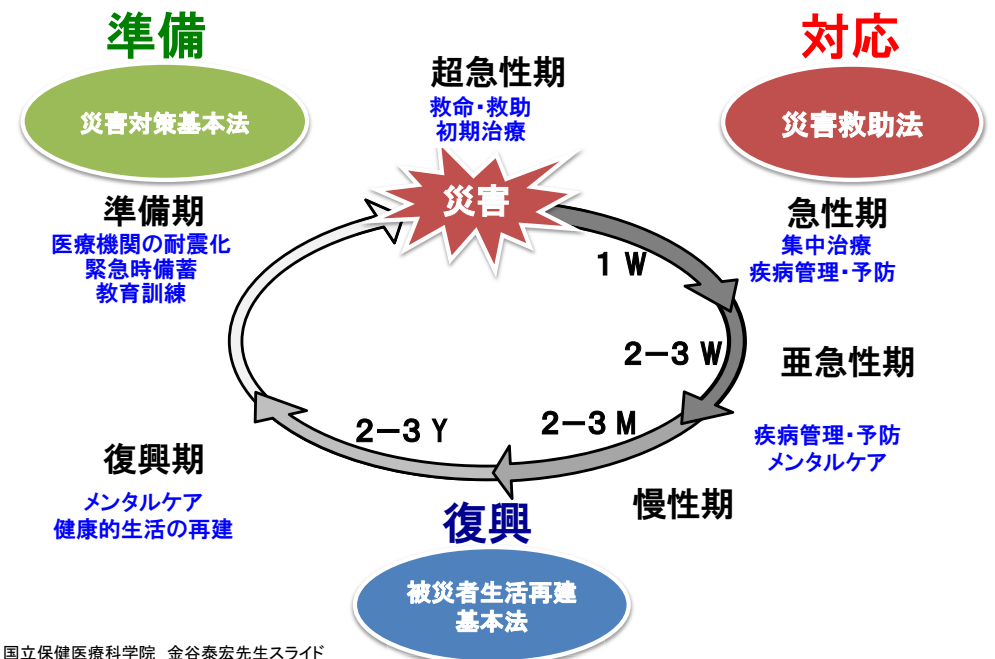
南海地震(1946年)、伊勢湾台風(1959年)を契機に制定

- 1947年 **災害救助法**(被災者保護と社会秩序保全)
災害に遭った者に応急的な支援を行う
- 1961年 **災害対策基本法**(防災行政の整備)
災害対策全体の体系化と計画的に防災行政を整備する
- 1962年 **激甚災害法**(財政援助・財政措置を規定)
地方公共団体及び被災者の復興支援のため国が財政援助

阪神・淡路大震災(1995年)を契機に制定

- 1995年 **地震防災対策特別措置法**(地震防災対策)
- 1998年 **被災者生活再建支援法**(基金による生活再建)

災害の各段階における対応とこれを支える法体系



防災基本計画

(平成23年12月27日中央防災会議決定)(抜粋)

災害対策基本法第36条(指定行政機関の防災業務計画)

「防災基本計画に基づいた防災業務計画の作成および検討・修正」

- 国、日本赤十字社、独立行政法人国立病院機構及び地方公共団体は、負傷者が多人数にのぼる場合を想定し、応急救護用医薬品、医療資機材等の備蓄に努めるものとする。また、地域の実情に応じて、災害時における拠点医療施設となる**災害拠点病院**等を選定するなど、災害発生時における救急医療体制の整備に努めるものとする。
- 国は、災害発生時に迅速な派遣が可能な**災害派遣医療チーム(DMAT)**に参加する、医師、看護師等に対する教育研修を推進するものとする。
- 国、地方公共団体及び医療機関は、災害時に医療施設の診療状況等の情報を**広域災害・救急医療情報システム**等により把握し、応援の派遣等を行うものとする。
- 国、日本赤十字社、独立行政法人国立病院機構及び**被災地域外**の地方公共団体は、医師を確保し**災害派遣医療チーム(DMAT)**等を編成するとともに、必要に応じて、公的医療機関・民間医療機関からの**災害派遣医療チーム(DMAT)**等の派遣を要請するものとする。

災害拠点病院の要件

- **24時間**いつでも災害に対する緊急対応でき、被災地域内の傷病者の受け入れ・搬出が可能な体制を持つ
- 実際に重症傷病者の受け入れ・搬送を**ヘリコプター**などを使用して行うことができる。
- **消防機関(緊急消防援助隊)と連携**した医療救護班の派遣体制がある。
- ヘリコプターに同乗する医師を派遣できることに加え、これらをサポートする、十分な医療設備や医療体制、情報収集システムと、ヘリポート、緊急車両、自己完結型で**医療チームを派遣**できる資器材を備えている。

※平成8年より整備、平成27年4月1日現在694病院

災害現場における体系的な対応 (CSCATTT)

◆Command&Control	指揮命令,統制/調整	指揮情報 医療活動
◆Safety	安全	
◆Communication	情報伝達	
◆Assessment	評価	
◆Triage	トリアージ	
◆Treatment	治療	
◆Transportation	搬送	

MIMMS Advanced courseより引用

国立病院機構災害医療センター 近藤久禎先生のスライドより

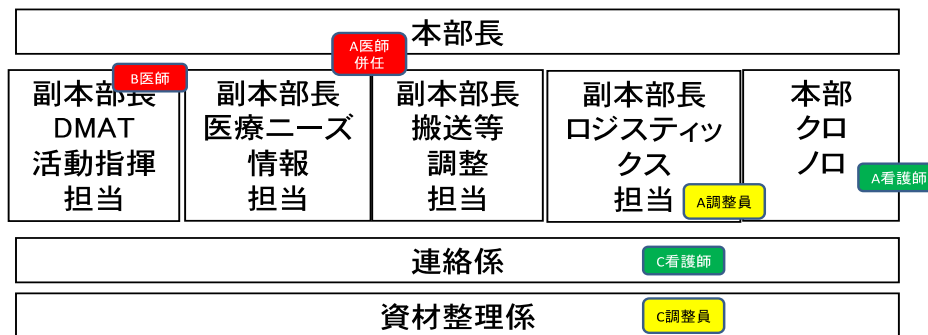
初動

HeLP-SCREAM (助けてと叫ぶ)
本部の立ち上げ(活動開始時)

• Hello	カウンターパートへの挨拶
• Location	本部の場所の確保
• Part	初期本部人員の役割分担
• Safety	安全確認
• Communication	連絡手段の確保
• Report	上位本部への立ち上げの連絡
• Equipment	本部機材の確保
• Assessment	アセスメント
• METHANE	状況の評価と情報発信

国立病院機構災害医療センター 小早川義貴先生資料

活動拠点本部内組織図



日本DMAT標準コース

国立病院機構災害医療センター 小早川義貴先生資料

参考: METHANE. MIMMSより一部改変

Major incident: コールサインの決定、大規模災害の宣言

Exact location: 現場や被災地域等の正確な位置

Type of incident: 災害の種類

Hazards: ハザード、危険因子。すでに顕在化しているものの他、潜在的なものも検討する。

Access/egress: 現場へ行く、もしくは現場から出るのに安全な方向

Number of casualties: 傷病者数

Emergency services: 医療、消防、警察等緊急作業従事者の現在の数と今後の必要見込み

国立病院機構災害医療センター 小早川義貴先生資料

活動中

REMEMBER 忘れないで
(活動中に留意すべき事)

- Report regularly 定期的に報告を「させる、する」
- Equipment 資機材に不足はないか
- Medical needs 医療需要はどうなっているか
- Effect and Exchange 救援効果判定と適切な交代
- Member and Meeting 参集DMAT数は、会議は
- Balance 各拠点におけるDMATのバランスは
- Ending 活動終了に向けたThank you
- Removal 撤収

国立病院機構災害医療センター 小早川義貴先生資料

引き継ぎ

THANK you ありがとう
(引き継ぎと撤収は初日から始まる)

- Timely 適切な時期に
 - Hand over 引き継ぎを
 - Appoint 選任してもらう(都道府県)
 - Number 必要な人数(医療班)
 - Kind of medical needs 医療ニーズを伝え
 - you あなたにお願い
- そしてありがとう

国立病院機構災害医療センター 小早川義貴先生資料

EMISの特徴

- 医療機関と行政、関係機関の情報共有ツール
- 共有する情報
 - 病院被害情報、患者受け入れ情報、避難所等情報
 - 病院のキャパシティ
 - DMAT活動状況、救護班活動状況
- 情報のリスト
 - 災害時に共有が必要な情報
 - 病院が発信すべき情報
 - 災害時病院マネージメントに必要な情報
 - 病院マネージメントツール

国立病院機構災害医療センター 小井土 雄一先生資料
第1回大規模災害時の非常用通信手段のあり方に関する研究会
平成27年12月24日

EMISの機能

- 災害時施設等情報
 - 対象:全病院、診療所、避難所、救護所、施設等
 - 入力項目:緊急入力と詳細入力
- 医療搬送患者情報
- 支援情報
 - 対象:DMAT、救護班
- 平時の施設情報
 - ベッド数、職員数等
- 緊急通報
 - 厚生労働省等への緊急通報機能を追加

需要

資源

国立病院機構災害医療センター 小井土 雄一先生資料
第1回大規模災害時の非常用通信手段のあり方に関する研究会
平成27年12月24日

災害時公衆衛生歯科研究会 <http://jsdphd.umin.jp/>

日本災害時公衆衛生歯科研究会
Japanese Society for Disaster Public Health Dentistry (SDPHD)

ホーム	団体概要	研修会概要	資料ダウンロード	報告書・関連書籍	ML登録
-----	------	-------	----------	----------	------

事務局

- お問い合わせ

新刊書籍紹介

- 災害時の歯科保健医療対策【2015年6月15日発売】

お知らせ

2015-07-08	第64回口腔衛生学会シンポジウム「東日本大震災後の関係機関における災害時歯科保健医療の取組～大規模災害に備えて～」資料を公開しました。
2015-06-15	本研究会編集の書籍「災害時の歯科保健医療対策」が発売されました。
2015-05-15	ホームページを公開しました。
2015-04-15	日本災害時公衆衛生歯科研究会が発足しました。

リンク



2015年6月15日 発刊

2000円!



2016年7月10日 発刊

1800円

